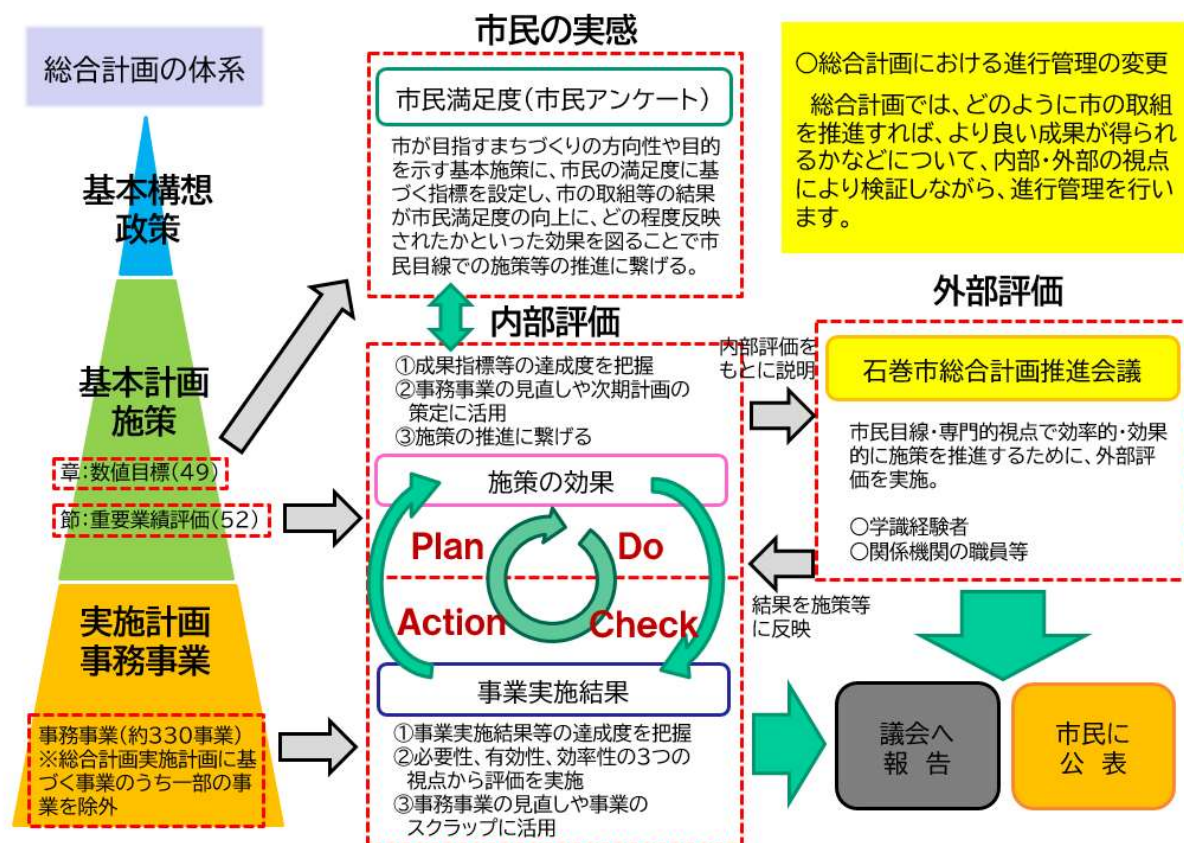


第4編 計画の推進

(1) 計画の推進

石巻市総合計画における進行管理の全体概要



「第2次石巻市総合計画」は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成しています。基本構想では、「ひとりひとりが多彩に煌めき 共に歩むまち」を将来像に掲げ、将来像の実現に向けた6つの基本目標を定めています。

基本計画では、6つの基本目標を達成するための基本施策を定め、数値目標(KGI)と重要業績評価指標(KPI)を設定しており、その達成状況を毎年度評価・検証することにより、施策の進捗管理を行います。

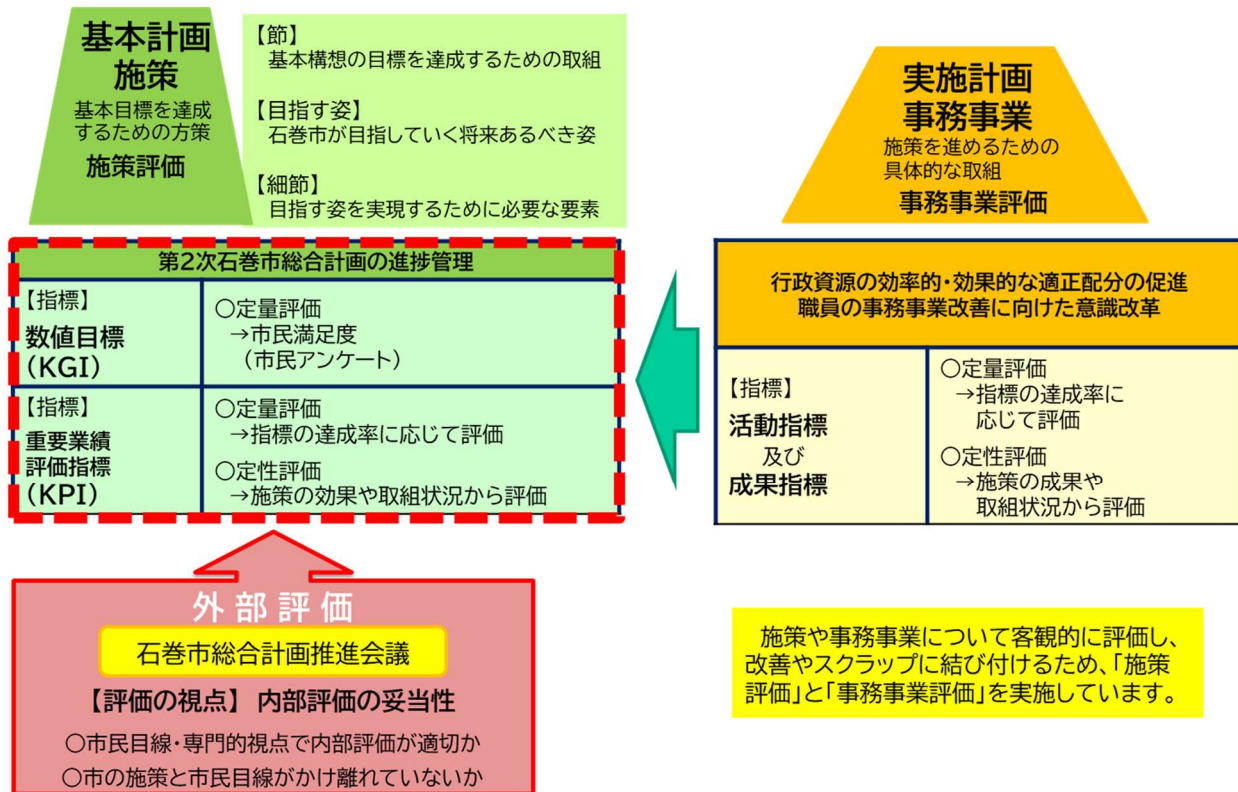
後期計画においては、KGIに市民の満足度などに基づく主観的な指標と、施策の効果を測定するための統計的な数値の客観的指標を設定し、各節における目指す姿の達成に必要な重要業績指標を設定するなど、市民へ施策の効果を明確に説明できるようにロジックモデルに基づき策定しました。

計画を実効性のあるものとしていくためには、計画に位置づけた施策を着実に実施し、その進捗状況や成果(目標の達成状況)を点検・評価し、更にそれを次の実施へとフィードバックさせていく仕組みづくりが重要です。

引き続き、[Plan(計画)]→[Do(実施・実行)]→[Check(点検・評価)]→[Action(見直し)]のサイクルを確立し、継続的に計画の進行を管理します。

(2) 評価における関連性

石巻市総合計画の評価ロジック



本市では施策や事務事業について客観的に評価し、改善やスクラップに結びつけるため、「施策評価」と「事務事業評価」を実施しています。

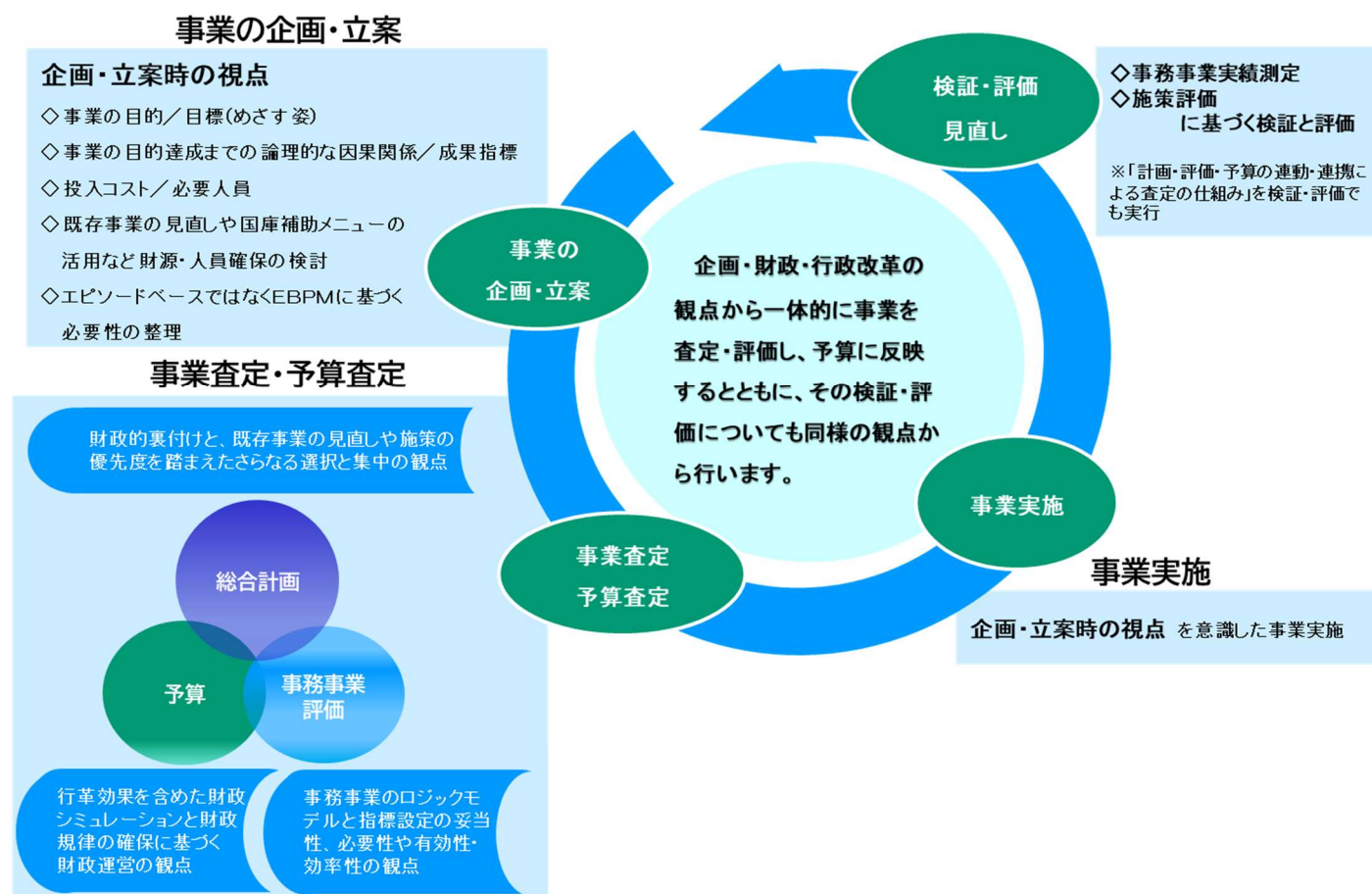
事務事業評価では、「事業の必要性・有効性・効率性」などの視点により、総合計画実施計画掲載事業の一部を評価対象として、内部評価を実施しています。

施策評価では、施策の進捗に関して担当部局による内部評価の後、学識経験者や各地域の代表者、関連団体の職員で構成される石巻市総合計画推進会議において、市民目線・専門的視点で内部評価が適切であるか、市の施策と市民目線がかけ離れていないかといった外部評価を実施しています。

この二つの評価結果に基づき毎年度総合計画実施計画を見直し、効率的かつ効果的に施策を推進していきます。

(3) 事務事業評価・予算との連携

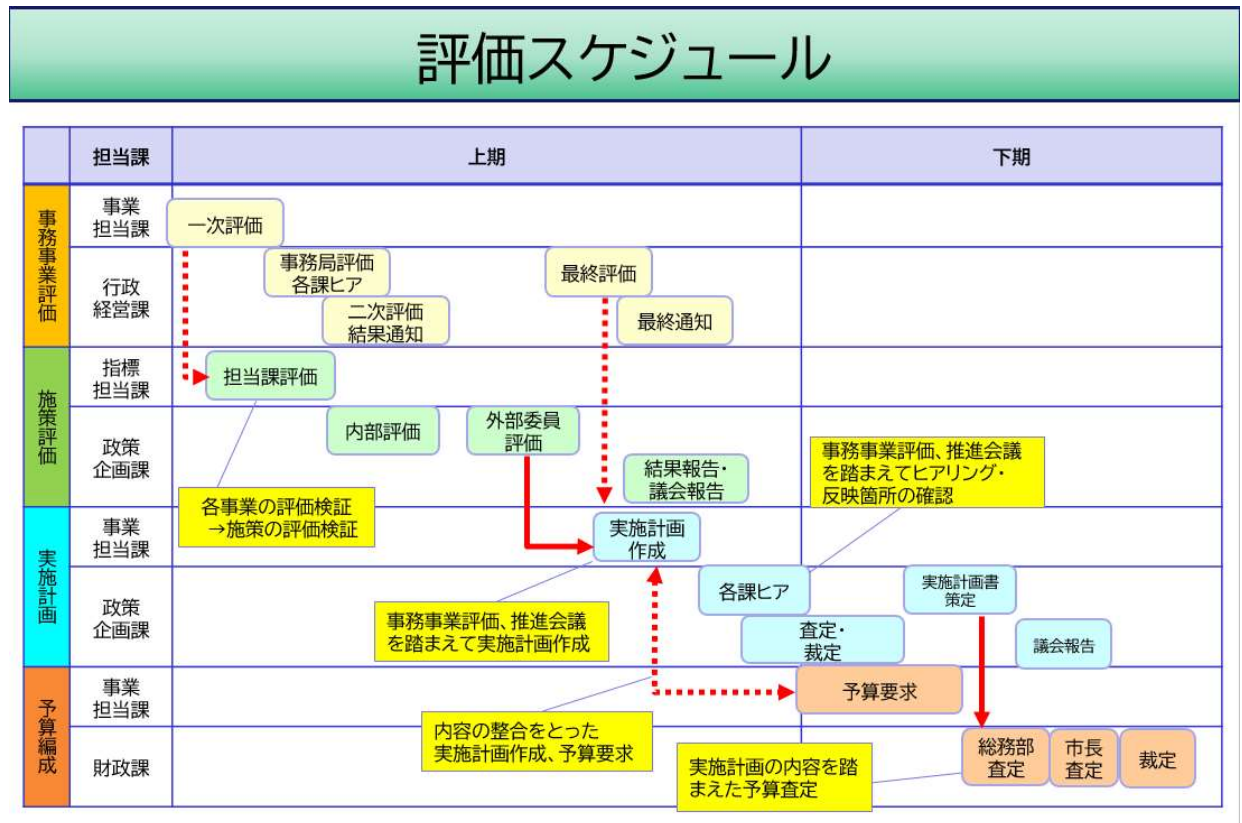
行政評価(事務事業評価)・財政(予算)との連携



少子高齢化をはじめとする人口減少や社会情勢の変化、厳しい財政状況の中でも計画を着実に推進するためには、施策(事業)の評価・検証の結果を次の計画や予算へ反映していく必要があります。

総合計画における事業の企画・検討の際には、各基本目標に設定した KGI や目指す姿の達成に向けた KPI への効果や既存事業の見直しなどが必要となります。毎年度見直す実施計画により事業の効果やコストを計算し予算へ反映することで事業を実施し、翌年にその事務事業や施策の効果を評価検証することでPDCAサイクルを確立し、総合計画の将来像である「ひとりひとりが 多彩に煌(きら)めき 共に歩むまち」を目指していきます。

(4) 評価スケジュール



評価から予算へ反映するまでの流れは上記のとおりです。

事務事業評価(内部評価)や総合計画推進会議(外部委員評価)の結果を受け、各担当課において実施計画を作成します。これと整合が図られた予算要求が行われ、裁定を経て事業実施となります。実施した事業は、次年度の事務事業評価、総合計画推進会議において内容の検証・見直しが行われます。これらのPDCAサイクルのプロセスを半年以上の期間をかけて毎年度実施し、効率的かつ効果的な内容に改善しながら計画を推進していきます。

